

平成27年度

第5回 ちばコラボ大賞

連携事例紹介パンフレット



県内には、福祉や環境、子育て、まちづくりなどのさまざまな分野で、地縁団体、企業や学校、行政機関等と市民活動団体とが連携して地域の課題解決に取り組むことで、成果を上げている事例がたくさんあります。県では、そのような連携事例の中から、他の模範となるような優れた事例を「ちばコラボ大賞」として表彰しています。第5回目となる平成27年度は、県内各地から11件の応募があり、審査の結果、3件を表彰事例に決定しましたので御紹介します。



千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」

※平成22～26年度までに表彰した11件の事例についても受賞時の取組を御紹介しています。



千葉県環境生活部県民生活・文化課

表彰式 (平成27年度)

表彰式では、鎌田審査委員長に講評を頂いた後、千葉県環境生活部長から表彰事例の代表者に賞状が贈られたほか、チーバくんも加わり記念撮影が行われました。

遠山環境生活部長からは「皆様のような取組が千葉県全域で広く行われ、支え合いと活力ある千葉県づくりが促進されることを期待しています。」とのメッセージが送られました。



審査委員長からの講評



千葉工業大学 副学長 鎌田 元弘氏

ちばコラボ大賞を受賞された皆様、おめでとうございます。審査にあたっては、ちばコラボ大賞の名称に使われている「コラボレーション」、つまり団体同士の「連携・協働」の観点により、3事例を「ちばコラボ大賞」として選考いたしました。今回審査をさせて頂いて、千葉県の協働の裾野が市町村津々浦々、そして若者、子どもたちへと着実に広がってきているように感じ、大変喜ばしく思いました。今回の受賞をきっかけに、全国の見本となるような取組として、今後も御活躍頂けることを祈念しております。



表彰事例 01

いのち 生命と育ちの森プロジェクト【浦安絆の森整備事業】

浦安市

● 生命と育ちの森プロジェクト(13団体により構成) ● 浦安市

まちづくり・環境保全

● プロジェクトのはじまり

浦安市は2011年の東日本大震災の際、液状化により市内に土砂が噴出するなど、大きな被害を受けました。そのような中、市の協働提案制度をきっかけとして、13の市民活動団体と行政が連携して、緑化の推進や強風や高潮からの減災効果が見込まれる森を、地域の人々とともに作りあげると、「生命と育ちの森プロジェクト」の取組が始まりました。

● みんなでつくる「浦安絆の森」

森づくりは、主に市内の沿岸部で行われています。海岸線に土塁を築き、その上に浦安市の気候に合った多種類の樹木を植樹することで、海からの強風や潮風を和らげる効果のある森が生まれます。

森づくりに必要な苗の一部は、市内の幼稚園や小学校など地域の協力を得ながら、実やドングリから育成しています。また、うらやす市民大学において森づくりの基礎を学ぶ講座や植樹の指導者(森づくりマイスター)を養成する講座を開催するなど、森づくりの新たな担い手の育成にも取り組んでいます。

植樹活動や苗の育成などを地域の人々の参加を得ながら行うことで、地域住民の「ふるさと意識」の醸成に繋がっています。

【評価のポイント!】

都市の緑化や減災効果の見込まれる森をつくるという、長い将来を見据えた大きなテーマのもと、連携団体間の活動にとどまらず、地域の住民や学校などの参加も得ながら取り組んでいる点が評価されました。



表彰事例 02

チームよつてら～学びでつながる寺子屋コミュニティ～

四街道市

●チームよつてら ●公益財団法人四街道市地域振興財団 ●四街道市

社会教育・子どもの健全育成

●四街道市で広がる「寺子屋」

四街道市では、多様化する子供たちの教育ニーズに対応するため、市民活動団体や公民館、行政などが連携して、市内の小学生を対象に、学習支援や様々な体験学習を提供する「寺子屋事業」を実施しています。

この寺子屋事業の運営の中心を担っているのが、大学生や高校生といった、地域の若者たちによる市民活動団体「チームよつてら」。寺子屋の企画運営や広報、ボランティアスタッフの窓口などの機能を担いながら、活動拠点となる四街道公民館で毎月2回、夏休みなどの長期休みには市内各地で、寺子屋を開催しています。

寺子屋では学習支援にとどまらず、書き初めや工作、演劇体験など様々な体験学習も実施されています。

●学びでつながる寺子屋コミュニティ

誰もが集まることのできる「寺子屋」を市内各地で開催することで、子どもたちの居場所づくりや公民館の活性化に繋がり、またボランティアとして活動する学生自身も、地域の人々と交流しながら活動することによって、社会や将来について考え、成長する機会になっています。

【評価のポイント!】

大学生や高校生といった地域の若者たちが活動の中心となっている点や、市内全域において寺子屋の取組が行われているなど、活動の広がりを感じられる点が評価されました。「寺子屋」を通じた豊かな地域づくりの取組として、今後も継続的な活動が期待されます。



表彰事例 03

きさらづ・ブルーベリー・ツーリズム —環境に配慮したブルーベリー栽培による地域活性化—

木更津市

観光振興、農山漁村、中山間地域振興

●木更津市観光ブルーベリー園協議会(9団体により構成) ●木更津市 ●千葉県君津農業事務所

●木更津市の地域活性化に向けて

木更津市では、アクアライン開通後、市内買い物客の都心流出による中心市街地の空洞化や高齢化が進んだことから、地域を盛り上げていくための新たな魅力づくりが求められていました。

そこで、木更津市の観光農園や市民活動団体などが協議会を結成し、行政とも連携しながら、ブルーベリーを軸にした地域の活性化に取り組むこととなりました。

●こだわりのブルーベリー栽培

この協議会では、農薬・化学肥料を一切使用しないというこだわりの栽培法によって育てた完熟ブルーベリーの摘み取り体験を提供しています。協議会内で統一した栽培法を遵守することによって、ブルーベリーのブランド価値の創造にもつながっています。

●オールシーズン型の観光資源づくり

栽培法以外の部分においては、各農園でそれぞれ独自に加工食品の開発や、豊かな自然を活かした癒しの空間づくりなども行っており、農園同士で切磋琢磨しあいながら、一年を通して木更津市に観光客が訪れてくれるような観光資源づくりに取り組んでいます。木更津市が日本一のブルーベリー産地として認知を得られることを目指して、日々活動を続けています。

【評価のポイント!】

地域の活性化という目標に向かって連携団体が一丸となって取り組んでいる点が評価されました。ブルーベリーを軸として、観光や環境など、様々な分野における地域活性化につなげることのできる取組として、今後の活動の展開が期待されています。

1 復興観光 -被災から花と緑いっぱいのまちづくり-

旭市

実施団体 ● 花と緑で旭を元気にするプロジェクト協議会

花と緑をテーマにした、地域の笑顔を取り戻す活動

東日本大震災の津波によって甚大な被害を受けた旭市飯岡地区では、地域の様々な人々や団体による協議会が復興活動に取り組んでいました。その協議会の円卓会議での「『花と緑』をテーマにした活動を通じて地域住民の活力や笑顔を取り戻そう」という発議をきっかけに、「花と緑で旭を元気にするプロジェクト協議会」が立ち上がり、活動がはじまりました。

地域の学校や神社の境内、被災により生じた空き地等を活用したコミュニティガーデンづくりや、市内外の企業や学校を対象にした津波を語り継ぐ防災教室の実施、観光遊歩道(古道)の整備や、特産品を活かした商品開発など、活動は多種多様です。

関わる人々も様々ですが、円卓会議を核にそれぞれが特徴を生かして協働することにより、地域活性化・地縁回復に貢献しています。

防災を観光に活かす独創的な事例であり、円卓会議を通じて様々な主体を巻き込み、幅広い分野で課題解決に取り組み、復興のまちづくりに大きな成果をあげています。



2 青木繁「海の幸」誕生の家・小谷家住宅を活かした漁村のまちづくり

館山市

実施団体 ● NPO法人安房文化遺産フォーラム ● 青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会 ● NPO法人青木繁「海の幸」会 ● 富崎地区コミュニティ委員会 ● 布良崎神社 ● 館山市 ● 館山市教育委員会 ● 館山美術会 ● NPO法人全国生涯学習まちづくり協会 ● 千葉県歴史教育者協議会 ● 財団法人石橋財団石橋美術館 ● 青木繁旧居保存会 ● くるめつつし会

地域の歴史文化を活かしたまちづくり

館山市富崎地区は、日本を代表する明治の画家青木繁が『海の幸』(国重要文化財)を描いた漁村として知られています。近年は水産業の衰退に伴い少子高齢過疎化が進んだため、NPOや地域住民らが中心となって地域活性化を目指し、青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会を設立しました。地域の歴史文化の調査や、草刈りなどの環境整備、まちづくり講座、ウォーキングガイド、郷土料理レシピ集づくりなど、地域の魅力に磨きをかける活動を展開してきました。

青木繁が滞在した小谷家住宅は館山市指定文化財となり、館山市ふるさと納税では「小谷家住宅の保存・活用に関する事業」を指定できるようになりました。全国の著名な画家は、チャリティの青木繁「海の幸」オマージュ展で保存基金を募っています。多様な団体と連携を図りながら、平成28年春の一般公開を目指し、27年の修復事業に取り組んでいます。



3 緑が丘クリーンプロジェクト -地域の清掃から安心・安全な街を目指して-

八千代市

実施団体 ● 緑が丘クリーンプロジェクト ● 八千代市立みどりが丘小学校 ● 八千代市社会福祉協議会緑が丘支会 ● 八千代市社会福祉協議会大和田新田上支会 ● 株式会社サイサン千葉支店 ● 社会福祉法人八千代翼友福祉会 ● イオンモール株式会社イオンモール八千代緑が丘 ● 八千代市防犯組合連合会 ● 八千代市 ● 八千代市教育委員会

みんなで一緒に、街を綺麗に。

八千代市の緑が丘地域は、平成8年の東葉高速鉄道開通により人口が増加していた一方で、新規住民同士の交流が少なく、街への愛着度も低い状態でした。そういった背景の中で、地域の清掃活動をしていた緑が丘クリーンプロジェクトが、交流促進と愛着度アップに向け、住民を巻き込んだ清掃活動を開始しました。

企業や学校等に呼びかけることで徐々に活動が広がり、現在は毎回数十名が参加しています。また、活動が広がったことで、地域から様々な連携依頼があり、餅つき大会やパトロール等の防犯活動等を実施。幅広い世代の交流の実現や八千代緑が丘駅周辺の自転車盗難件数減少につながるなど、着実に効果が出ています。「ゆるやかな連携」による市民主導型の活動であり、他の地域の参考にもなる取組です。





1 富津市志駒・山中地区「廃校を活用した教育ファームづくり」 富津市

実施団体 ● NPO法人千葉自然学校 ● 環南みんなの楽校 ● 富津市峰上第十区 ● 富津市峰上第十一区

観光や教育旅行の振興による地域の活性化を目指して

富津市志駒・山中地区では過疎と高齢化が進み、両地区を校区としていた環南小学校も平成20年に廃校となり、地域活性化のため、廃校の活用法の検討が行われました。

検討の結果、住民とNPOの連携により、自然や農林・食等を体験できる教育ファームとして廃校を活用し、将来的には潮干狩り等の他、東京電力富津火力発電所、荏原製作所富津事業所とも連携することで産業学習の場とし、観光や教育旅行の振興をはかるなど、地域全体の活性化につなげていくこととなりました。

平成20、21年度は林野庁の補助事業を活用し、フォーラム等を開催。情報交換や広域連携体制の構築、体験ツアーなども行いながら、教育ファーム活動を行う体制を作りました。平成22年からは、教育ファーム「環南みんなの楽校」として、川遊び体験や収穫を伴ったアウトドアクッキングなど年間を通して体験イベントを開催するほか、地域の人材育成も進めており、継続的な活動が期待できる取組です。



2 発酵をテーマとした“小さな公”をつなぐまちづくり 神崎町

実施団体 ● こうざき発酵の里協議会(現NPO法人こうざき発酵道楽)

神崎町の老舗の酒蔵や地元農家が中心となった「発酵の里協議会」

神崎町はかつて「関東灘」と呼ばれるほど発酵・醸造産業が盛んな地域でしたが、徐々に産業が衰退し、商店街の活気も失われつつありました。そんな中、神崎町を再び元気な町にするため、老舗の酒蔵や地元農家が中心となって「発酵の里協議会」を立ち上げ、発酵をテーマとしたまちづくりに取り組みはじめました。

東日本大震災の際には町全体が大きな被害を受け、復興活動に追われることになりましたが、震災前以上に町を元気にしていこうと、NPOや企業、行政にも連携・協働を呼びかけ、地域の活性化を進めていくこととなりました。

発酵をテーマに繋がる場づくりとして「全国発酵食品サミットinこうざき」を2013年1月に開催。また発酵の里協議会では発酵熟を利用した酵素風呂づくりの体験、バイオガスプラントづくりや手作り発酵コスメのワークショップなど、発酵を食の分野にとどまらせない様々な企画も実施。圏央道神崎ICの開通や道の駅開設に伴う交流人口の増加、町内流入に向け、さらなる発展・継続が期待できる取組です。



3 関わる全ての人笑顔になる仕組み 市川市 船橋市

実施団体 ● 株式会社ソーケン製作所 ● NPO法人ちばMDエコネット ● NPO法人地域生活支援の会ステップ ● NPO法人カム・トゥルー石陶房 ● NPO法人1to1

3つの地域課題をひとつの形へ。企業や福祉事業所を運営しているNPOが連携。

里山に放置された間伐材が朽ちることによって排出するCO₂、福祉事業所で働く方の賃金の低さ、児童養護施設の改修の必要性という課題に対し、みんなが笑顔になる仕組みを作りたいという考えのもと、企業と福祉作業所を運営しているNPOが連携してこれらの課題解決に取り組んでいる活動です。

連携団体の一つである株式会社ソーケン製作所が、里山に放置された間伐材を利用した商品作りの一部を福祉事業所へ委託。そこでできた商品を、全国展開している企業とタイアップして販売することで福祉作業所の賃金上昇につながり、また、その売り上げの一部を児童養護施設の改修費用に充てることで、環境問題と社会問題の解決が、更なる社会貢献活動へとつながっていく「関わる全ての人笑顔になる仕組み」が完成しました。

また東日本大震災被災地への支援として、復興イベントの実施や、被災地の保育園へ間伐材大型クリスマスツリーを寄贈するなど、県外にも広がりを見せています。





1 「多次元連携協働事業」 流山市

実施団体 ● 流山新市街地地区安心・安全まちづくり協議会

安心で安全な魅力的なエリアを目指して

流山市新市街地地区では平成17年に地域住民やNPO、企業、大学、行政を交えて、「流山新市街地地区安心・安全まちづくり協議会」を組織化し、「安心・安全」をテーマにまちづくりの活動をしてきましたが、都市化の進展や、東日本大震災で顕在化した孤立しがちな住民や子育て中の保護者のもつ不安感に対応するため、地域住民やNPOとも連携しながら、「流山おおたかの森駅」周辺地域における「防災」をテーマにした活動に取り組むこととなりました。

震災時の行動指針や、自分の地域の危険箇所や避難経路などを記したe防災マップの作成、さらにマップを活用したまち歩きイベントを実施し、地域を支える様々な団体、住民の交流を図りました。

イベント等の他にも、高齢者や子育て世代の交流、地域の人材育成講座等を実施することで大学とNPO、地域包括支援センターといった多様な主体の交流につながるなど、地域の多様な主体が能動的に参加するための場づくりが進んでいる取組です。



2 「多世代交流型コミュニティ事業」 柏市

実施団体 ● 多世代交流型コミュニティ実行委員会 ● NPO法人テラス21 ● 柏農家の野菜市運営委員会
● 柏市社会福祉協議会 ● 東京大学 ● 柏市

誰もが気軽に立ち寄れる地域の交流拠点づくり

柏市高柳地区では、高齢者・子育て世代の孤立化や、農村地帯と住宅地の交流が少ないといった地域課題がありました。

そんな中、地域全体で子どもたちを見守る活動をしていた「高柳地域ネットワーク」を中心とし、地縁団体やNPO、社会福祉協議会、大学、行政などが連携して上記の課題の解決に取り組む「多世代交流コミュニティ実行委員会」が生まれました。

実行委員会による円卓会議により、様々なイベント等を考案していく中で、地域住民の交流拠点づくりが必要ということになり、公共施設の車庫を「コミュニティカフェ」に改修。地域の人たち自らが講師となる講座、教育学部の学生が子どもたちとふれあう東大キッズセミナー、NPOが出店する野菜の定期市など多種多様なイベントを開催しています。コミュニティカフェを拠点に、地域の高齢者と子供たちの間に交流が生まれるなど、地域の幅広い世代の人々がつながりあうまちづくりが進められています。



平成23年度は震災により、大賞の募集を中止しました。





1 コスモの森「学校の環境教育支援プロジェクト」 市原市

実施団体 ●コスモ石油株式会社千葉製油所 ●NPO法人千葉自然学校

里山の保全活動による「地域との共生」を目指して

千葉県は豊かな自然環境に恵まれた地域であり、その自然との共生の中で、多くの人々が里山を育ててきましたが、時代の流れとともに、都市部はもとより、農村部でさえも、住む人と自然とのつながりが感じにくい環境になりつつありました。

そのような中、「地域との共生」をテーマに里山の保全活動に取り組むこととなった企業と、自然体験活動を展開しているNPOが連携して、小学校での環境教育の支援に取り組むこととなりました。

この取組は年間を通じた継続的なプログラムとなっており、生徒達は、四季を通して移り行く自然を、豊かな感性で体験し、森の役割や仕組みなどを学んだ上で、最後に自分達が学んだことをまとめ、これからできることを考えることで、里山での非日常の体験を、学校や家庭、地域へと結びつけやすくなるようになっています。

企業は教育委員会と協議して参加する学校を選定し、NPOは林業の専門家等とも連携して体験プログラムを作成。里山の整備は両者で行っています。



2 市川市における安全で安心なまちづくりのための耐震診断 市川市

実施団体 ●東京ベイ信用金庫 ●県立市川工業高等学校 ●NPO法人住まいのサポートセンター

地元信用金庫×工業高校×NPOの連携

市川市は昭和後期にベッドタウンとして開発が進んだ都市です。そのため耐震化の進んでいない木造住宅が多く残っており、また独居老人が多く暮らしているという地域の課題を抱えていました。その市川市において、耐震診断ボランティアに取り組む工業高校と、「住まい」に関する相談会等を実施しているNPO、そして地元信用金庫が連携し、課題解決に取り組むこととなりました。

NPOが高校へ出向き、住まいの選び方や建て方、耐震診断に関する授業を定期的に行うほか、NPOが実施する相談会において、生徒が行うITによる簡易耐震診断を紹介し、希望者には一級建築士の資格をもつNPOスタッフと高校生が、実際に現地へ赴き、耐震化工事の計画を行う出張耐震診断を行います。

信金は資金面での相談の他、広報、町会との連携促進等、全体を調整しています。

取組の中、生徒は住民への分かり易い説明の仕方や社会人の対応などもNPOから学び、知識の実践にとどまらない成長の機会となっています。



3 九十九里地域医療夏期セミナー2010 東金市

実施団体 ●東金商工会議所 ●城西国際大学 ●NPO法人地域医療を育てる会

地域医療を支える次世代の医療従事者の育成

九十九里地域は、県内でも特に医師が不足しているという地域課題を抱えていましたが、こうした課題を医療機関や行政に任せきりにせず、住民自ら地域医療を育てていかなければならないとの思いから、NPOが設立され、東金病院を舞台とした活動が展開されてきました。

そんな中、平成21年度から、次代の医療を担う人材を育てるため、医学生や薬学生などの学生を対象にした、地域医療の現状と課題を学ぶセミナーが開催されることとなりました。セミナーでは、NPOと病院だけでなく、地域に根差した医療従事者の育成を目指す大学や、商工会議所など、様々な主体が連携しており、参加者は医療現場や福祉施設等の見学や、患者や家族、他職種の人物に接する中で、新たな視点や、福祉と医療との連携の重要性を学び、そしてその後の発表会には一般市民も参加し、ともに地域医療の課題を共有する場となりました。地域医療の崩壊という緊急性の高い課題に取り組む活動です。



平成27年度ちばコラボ大賞 応募事例

※表彰事例については1.2ページで御紹介しています。

ブルキナファソとの友好活動

「ふれる、関わる、そして繋がる、ブルキナファソとの国際交流活動」



小学校と市民活動団体が連携して西アフリカの内陸国「ブルキナファソ」と国際交流を行っています。ネリカミの栽培や、インターネット電話を活用した交流活動等、相手国の文化を学ぶ様々なプログラムを通して、生徒達に貴重な経験を提供しています。

地域介護に貢献できる人材育成を目指した、高校在学中の介護資格取得研修



高校生のうちから介護関係の資格が取れるよう、NPOと高校が連携して、生徒達の介護資格の取得を支援しています。学校とNPOの間で連絡相談を密に行い、介護事業者等の協力も得ながら、地域介護に貢献できる人材の育成を行っています。

千葉工業高校 地域合同避難訓練



広域避難場所・避難所に指定されている千葉工業高校では、行政や自治会等と連携して合同避難訓練を実施しています。避難場所やAEDの使用法の確認、消火訓練、炊き出し訓練などを地域の方々とともに行うことで、地域防災力の向上に繋がっています。

介護予防・認知症予防体験フェア 2015 in 浦安



介護予防の推進と啓発を目的に、介護予防に携わる市民活動団体、NPO、社会福祉協議会、行政が運営主体となり、連携協力しフェアを開催。講演や体験ブースなどを通じ、参加者と介護予防について関心を深め、高齢社会に向けた地域づくりに取り組んでいます。

地域の人たちとの連携による子どもの居場所づくり



南房総市富浦町では、地域づくり協議会と地域の様々な団体が連携して、子どもたちの遊び場づくりと魅力ある遊びの提案のための活動を進めています。各団体が得意分野を活かしながら、子どもたちがいつでも楽しく遊べる遊び場づくりに取り組んでいます。

組織培養技術を活用した環境保全活動 ハマボウフウの繁殖方法について



大網白里市では、かつて白里海岸に生息していたハマボウフウ（海浜植物）を再生させるため、高等学校と民間の中間支援組織が連携。高校生たちがハマボウフウの調査・研究を行い、その研究結果をもとに、地域の人々とともに白里海岸の保護活動に取り組んでいます。

千葉大学 マイボトルモデル事業



千葉大学発のNPO法人が中心となって、大学構内におけるごみ削減を目指した「マイボトル携帯推進」の取組が実施されました。地域の飲食店などの協力も得ながら、学生や教職員に対するリデュース意識の涵養や、環境負荷の削減に貢献しました。

「食と健康」についての食育推進事業



健康な生活に重要である「食」への理解促進を図るため、市民活動団体と企業が連携して一般県民が訪れるイベント等で無料の血管年齢測定を行うとともに、その結果を踏まえた食育相談等、一連の食育活動を行っています。

※応募事例については、実施団体から了承を得た事例のみ掲載しています。

スケジュール 平成27年度

6月～ 8月 連携事例の募集
9月～10月 事務局による一次審査
10月～11月 審査委員による二次審査
12月 表彰式・事例発表会

※28年度の募集も、平成28年6月頃から開始する予定です。

千葉県ホームページ 「ちばコラボ大賞」

その他、詳細はホームページをご覧ください。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/kkbunka/collabo/index.html>

第5回ちばコラボ大賞 連携事例紹介パンフレット

平成28年3月
編集・発行

千葉県環境生活部県民生活・文化課
〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町1-1
TEL 043-223-4133/FAX 043-221-5858
Email: npo-vo@mz.pref.chiba.lg.jp